

第15回「20世紀の音楽」

聴き損じてはもったいない！！！！

現代作曲家

=はじめに=

私のオーディオ的偏見

音楽に深く没入して楽しむために・・・・・・・・

1. 指揮棒を振る・・・・人には見せてはいけない
2. 低音域再生その質（芯のある）、バランス、ボリューム感に拘る。
（中高域を殺しては行けない）
3. 楽器質感の再生 バネを感じる音（スピーカーは楽器）
4. 空間表現に優れる（上下左右奥行き）

一部 アルヴォ・ペルト（2）

ARVO・PART（1935～）

エストニア生まれの作曲家。しばしばミニマリズムの楽派に属する一人とされる。ペルトの音楽教育は7歳より開始され、14、5歳の頃には既に作曲をしていた。

タリン音楽院で作曲の勉強をしている彼について、同級生は、まったく多作で、袖を振るだけでノート（音符）が落ちてくるようだったと発言している。

ソヴィエト連邦外部からの音楽的影響は皆無に等しく、入手可能な物と言えばせいぜい非合法のテープとスコア程度だった。

1968年までエストニア放送のレコーディングエンジニアの仕事をへて、1979年に家族とともに国を出てオーストリアのウィーンに移住、市民権を獲得。1982年にはベルリンを拠点に活躍した。

創造的な作品群によって、我々の音楽の本質に関する理解を一変させた作曲者の一人である。

1963年、27歳でタリン音楽院を卒業。初期の作品ではショスタコーヴィチ

やプロコフィエフ、バルトークから12音技法やミュージック・セリエルの様式などからの影響を強く受けていたが、その後、西洋音楽のルーツへの回帰に転向し古楽へ、やがて独自のティンティナブリ（鈴声）様式を見出す。

(Wikipedia より抜粋)

<曲目> (曲順は変更することがあります。)

1. B-A-C-H 主題によるコラージュ (1964年)

Philharmonia Orchestra (指揮) Neeme Jarvi CHANDOS 9134 7:45

2. チェロ協奏曲「讃と否」 (1966年)

Bamberg Symphony Orchestra (指揮) Neeme Jarvi BIS-CD-434 8:44

3. 交響曲2番 (1966年)

Bamberg Symphony Orchestra (指揮) Neeme Jarvi BIS-CD-434 13:40

4. アリーナのために (1976年)

アレクサンダー・モルター (ピアノ) ECM POCC1062 10:47

5. カントゥス・ベンジャミン・ブリテンの思い出に (1977年) 5:00

デニス・ラッセル・デイヴィス (指揮) シュトゥットガルト国立管弦楽団 ECM POCC-1511

6. Darf ich ... ヴァイオリン、ベルと弦楽のための (1995)

Paavo Jarvi (指揮) Viktoria Mullova (Violin) ONYX4201 2:52

7. パッサカリア (2003)

Paavo Jarvi (指揮) Viktoria Mullova (Violin) ONYX4201 4:42

8. 交響曲4番 (2008年) ロサンゼルス

ロサンゼルス管弦楽団 (指揮) エサ・ペッカ・サロネン ECM 2160 35:09

9. リタニ (連祷) (1994)

タリン室内管弦楽団、エストニア・フィルハーモニー室内合唱団、(指揮) トヌ・カウステ

ECM-POCC-1039 22:45

10. 鏡の中の鏡 (チェロとピアノによる) (1978年)

9:12

ディトマール・シュバルク (チェロ) アレクサンダーモルター (ピアノ) ECM-POCC-1052

<アルヴォ・ペルトの世界> 黒田 恭一

甘くはなく、苦みのある、

明るくはなり切れなくて、うつむきがちな、

走る前にまずためらいが先に立ってしまう

ペルトの音楽にあるのは、

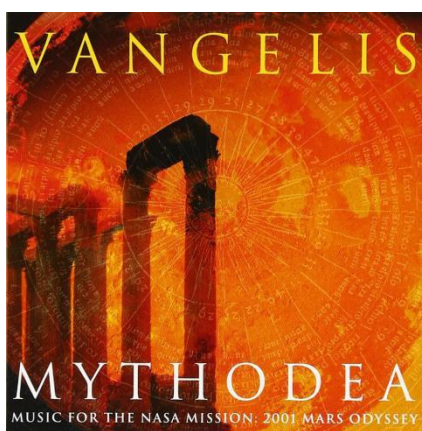
いわゆる「現代音楽」と呼ばれる音楽の多くが忘れてしまった、

音楽への熱い思いである。(CDライナーノートより)

二部 ヴァンゲリス

(Vangelis 1943~2022)

ギリシャの音楽家（シンセサイザー奏者・作曲家）である。1943年にギリシャ中部の港町ヴォロスで、画家の父と音楽家の母のもとに生まれる[6]。4歳から独学でピアノ演奏と作曲を手掛け、6歳で自作曲の演奏会を開いた[1]。高校在学時にプロとして音楽活動を始め、ジャズバンドでヴィブラフォン、ピアノ、オルガンなどを演奏した。高校卒業後は音楽学校などへ進学せず、美術学校で映画と美術を学んだ。音楽理論などはアリストテレスなる人物から個人教授を受けた。



今回は2001年のNASAの火星探検プロジェクト「2001 マーズ・オデッセイ」のテーマ音楽、キャスリーン・バトルやジェシー・ノーマンが参加、ライブ映像をご覧ください。壮大で流麗、静謐な美しさと荘厳な雰囲気が一気に溶け合い、独特のヴァンゲリス・ワールドを完成している。（以上ユニヴァーサル、Wikipediaより要約抄訳）